

平成 29 年度 京都府医師会勤務医部会 活動報告

1. はじめに

平成 29 年 4 月に新しい専門医制度がスタートする予定であったが、医師の地域偏在への懸念や勤務医の待遇が不透明などの意見が日医を始め各方面から出され、1 年先送りしての制度開始となった。新制度の発足が混迷を極める中、勤務医には、ほかにも医療安全対策、過重労働、研修医の指導や自らの生涯教育のあり方など、取り巻く問題が多岐に渡っている。とりわけ、昨年より取りざたされている「医師の働き方改革」については、急速に議論が進んでいることへの懸念が相次いでいる。勤務医の健康を守ることは医療界の共通認識として当然であるが、急激な改革は医療現場に大きな混乱をもたらすだけでなく、地域医療をも崩壊させる危険性をはらんでいる。いずれの問題もこのままでは放置できない状況となってきたため、勤務医部会としては、このような状況にも対応できるよう、勤務医部会幹事会を活動拠点として、種々の問題解決に向け取り組んでいるほか、女性医師の抱える勤務環境の問題を専門に協議する場として、これまでの女性医師WGの在り方を大幅に見直し、26 番目の常任委員会として新たに「医師のワークライフバランス委員会」を設置した。女性医師のみならず、すべての医師が働きやすい環境を整備していくことは医療業界全体にとって重要な課題であり、そのための提言や事業の策定に取り組んでいきたい。

2. 部会員数

京都府医師会勤務医部会は、発足以来 33 年を迎えた。部会員数、即ち、B・C 会員数は、平成 30 年 1 月 1 日現在、1,891 名で昨年より 96 名の増となり、京都府医師会総会員中、43.6%を勤務医部会員が占めている。ただ、これは全国平均の 52.9% (29 年 11 月現在での日医集計による) と比べて低い状況にあり、京都府内に従事する勤務医の約 3 分の 2 が医師会に未加入であることを考えると、依然、勤務医の組織率が低い状況にある。

過去 5 年間の勤務医部会員数の推移

年	勤務医部会員数	京都府医師会総会員数	割合
平成 30 年	1,891 名	4,339 名	43.6%
平成 29 年	1,795 名	4,243 名	42.3%
平成 28 年	1,713 名	4,148 名	41.3%
平成 27 年	1,684 名	4,120 名	40.9%
平成 26 年	1,692 名	4,125 名	41.0%
平成 25 年	1,707 名	4,154 名	41.1%

※基準日：1 月 1 日現在

3. 部会役員に関する件

松井勤務医部会長のもと、幹事長に鴻巣寛氏、副幹事長には安田健治朗氏、若園吉裕氏、吉田憲正氏、紀田康雄氏にご就任いただいた。今期の役員は以下のとおり。なお、任期は府医役員に準じ 2019 年 6 月定時代議員会まで。

役職	氏名	医療機関	備考
部会長	松井 道宣	同仁会クリニック	
幹事長	鴻巣 寛	綾部市立病院	
副幹事長	安田 健治朗	京都第二赤十字病院	
〃	吉田 憲正	京都第一赤十字病院	
〃	若園 吉裕	京都桂病院	
〃	紀田 康雄	第二岡本総合病院	
幹事	柴 禄郎	京都鞍馬口医療センター	

//	衛藤 美穂	京都第二赤十字病院	
//	渡邊 健次	堀川病院	
//	吉波 尚美	京都市立病院	
//	高橋 滋	洛和会丸太町病院	
//	清水 聡	新京都南病院	
//	山口 真彦	武田病院	
//	大越 香江	日本バプテスト病院	
//	谷川 徹	北山病院	
//	森村 達夫	宇多野病院	
//	植田 知代子	京都桂病院	
//	伊勢 健太郎	三菱京都病院	
//	沢田 尚久	京都第一赤十字病院	
//	兼子 裕人	愛生会山科病院	
//	木下 智晴	洛和会音羽病院	
//	橋本 哲男	医仁会武田総合病院	
//	瀬田 公一	京都医療センター	
//	中嶋 俊彰	済生会京都府病院	
//	佐藤 文平	宇治武田病院	
//	木戸岡 実	京都岡本記念病院	
//	中田 雅支	京都山城総合医療センター	
//	天池 寿	亀岡市立病院	
//	辰巳 哲也	京都中部総合医療センター	
//	鴻巣 寛	綾部市立病院	
//	川上 定男	市立福知山市民病院	
//	富士原 正人	京都ルネス病院	
//	竹内 一雄	舞鶴共済病院	
//	北森 伴人	舞鶴医療センター	
//	横井 大祐	京都府立医科大学附属北部医療	
//	松村 由美	京都大学医学部附属病院	
//	中西 正芳	京都府立医科大学附属病院	

4. 幹事会・正副幹事長会の開催

29年度は2回の幹事会と2回の打合せを含めた正副幹事長会を開催し、今期の事業内容を検討するとともに、総会の運営等について協議した。

開催日	会合名	主な協議事項
29. 6. 8	正副幹事長会	(1)平成29年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の出席について (2)次期勤務医部会幹事会への引き継ぎ事項について (3)学術賞選考委員会委員の選出について
29. 8. 26	幹事会	(1)平成29年度勤務医部会総会の開催について (2)医師のワークライフバランス委員会活動報告 (3)平成29年度勤務医部会 事業計画について
29. 11. 7	正副幹事長 打合せ	(1)平成29年度勤務医部会総会の運営について (2)勤務医部会総会の開催について (3)「提言」について
30. 1. 23	幹事会	(1)平成29年度全国医師会勤務医部会連絡協議会(10. 22~23)の状況について (2)学術生涯教育委員会の状況並びに平成30年度京都医学会の日程について (3)若手医療ビジョン委員会委員への選出について

		(4) 平成 29 年度勤務医部会総会について (5) 第 8 回医学生・研修医をサポートする会について (6) 「平成 29 年度研修医ワークショップ in kyoto」の開催について (7) 府医、日医の平成 30 年度会費の変更について
--	--	--

5. 府医各種委員会委員等への推薦

今期、勤務医部会から府医各種委員会の委員として下記の委員会に幹事を推薦し、各委員会にて勤務医の意見が反映されるよう意見具申していただいた。

◆学術・生涯教育委員会 瀬田 公一 幹事

また、勤務医部会員数が府医会員総数の 40%以上を占める中で、府医代議員 105 名中、勤務医の代議員数は 4 名、京大および府立医大の計 3 名を加えても計 7 名と、その比率は 6.6%に留まっている。勤務医の意見が府医の会務執行に届きにくい状況であり、今後の大きな課題である。

6. 京都府医師会への入会促進

本年度より始まった初期研修医の医師会費無料を受けて、各臨床研修指定病院のご協力のもと、積極的な入会促進を行い、85 名の入会を得ることができた。

7. 乳がん検診などへの出務医師の派遣

地域医療活動として、京都府医師会乳がん検診委員会と調整の上、出務医師の派遣を行っており、今年度は京都市内（2 地区）において 7 回、延べ 6 名の勤務医を派遣した。

8. 第 43 回京都医学会への演題発表

平成 29 年 9 月 24 日（日）に開催された第 43 回京都医学会では勤務医から 75 題ものポスター・口演演題発表があり、医学会を盛り上げた。

9. 京都医報「勤務医通信」欄への投稿

京都医報内に「勤務医通信」コーナーを設け、幹事の先生方に執筆をお願いしてきた。テーマは執筆者の自由としており、勤務医の生の声として掲載した。

10. 全国医師会勤務医部会連絡協議会への参加

平成 29 年 10 月 21 日（土）、北海道札幌市で開催された平成 29 年度全国医師会勤務医部会連絡協議会（北海道医師会主管）に鴻巣幹事長、紀田副幹事長および事務局が参加した。

協議会はメインテーマを「地域社会をつなぐ明日の医療を老えるとき 一次世代を担う勤務医の未来創成のためにー」とし、シンポジウムでは勤務医を取り巻く問題の中で喫緊の課題である「人口減少時代の地域と医療～若者と女性活躍の可能性」や「世代間ギャップの現況調査の結果からー指導医として伝えたいこと、若手が望むことー、～ジェンダーイクオリティに対する意識の違い」を取り上げ、様々な視点から勤務医を取り巻く環境や行方に関する発表がなされるとともに、フロアからの質疑応答も含めて、活発な議論が行われた。なお、協議会当日には下記の「ほっかいどう宣言」が提案された。

また、翌 10 月 22 日（日）には初の試みとして「勤務医交流会」が開催された。第 1 部の話題提供では市川日医常任理事「医師の働き方を考える」と題して演壇に立ち、その後、第 2 部として「勤務医の働き方」をメインテーマに①長時間労働の法対策②多様な働き方と診療支援システム③医療現場の世代間ギャップと管理職の意識④キャリア設計とワークライフバランス⑤医師として働くことの意味と現実ーに分かれてグループワークが繰り広げられた。キャリア、性別、所属の異なるグループではあったものの非常に活発なディスカッションが行われ、各グループでの意見交換を経ての、代表者から行われたテーマに沿った発表では、喫緊の大きな課題に対し真摯に向き合っている様子が見えられた。

ほっかいどう宣言

今日のわが国の急速な人口減少は、著しい生産年齢人口の減少を伴いながら、少子高齢化が進展する人口構成の変化であり、労働生産性向上のための抜本的な「働き方改革」の重要性が強調されている。しかしながら、公益性、倫理性、専門性が強く求められる医師は、患者・社会に貢献する職業人として、高度な学識と技能をもち続けなければならない、その改革には慎重な議論が必要である。

社会全体でワークライフバランスの改善に向けた取組みが推進される中、医療界も例外ではなく、勤務医が医師としてのモチベーションを保ち、地域医療を発展させ、自らの人生も豊かにすべく、次のとおり宣言する。

一、医師の働き方改革の議論が、地域医療を守り、地域格差是正につながる仕組みの構築の上になされることを求める。

一、勤務医が多様な働き方を選択・実現できるよう、世代間ギャップを相互に理解し、就労環境を改善する。

一、医師としての自らの職務を自覚し、いきがいを感じながら働き続けられる環境の整備に努める。

平成 29 年 10 月 21 日
全国医師会勤務医部会連絡協議会・北海道

11. 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会への参加

平成 29 年 5 月 10 日（水）、日医会館で平成 29 年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会が開催され、上田府医理事と事務局が参加した。協議会では「新たな専門医の仕組み」が取り上げられ、羽鳥日医常任理事が制度を概説、出席者からは「地域限定専門医研修プログラム」や「研修医のキャリアパス」について、指摘や質問が挙げられた。このほか「医療事故調査制度」についてもテーマとして挙がり、今村日医常任理事からこれまでの経緯の説明のほか、調査内容、院内調査の支援体制等について詳細に解説された。フロアからは、委員の報酬や AI 等の費用、司法介入の際の院内調査等に関する質問が示された。